

海洋ゴミから海を守る「プロジェクトK」 指導者 木戸雅俊

～海洋ゴミの実態と与える影響とは～ 班員 浜田 匡史 上戸 陽葵 山本 直正 佐藤 史弥

【課題設定の理由】

宇和島では海洋ゴミが近年増加し続けている。漁業への損害や海洋汚染などの問題の発生を未然に防ぐためこの課題を設定した。

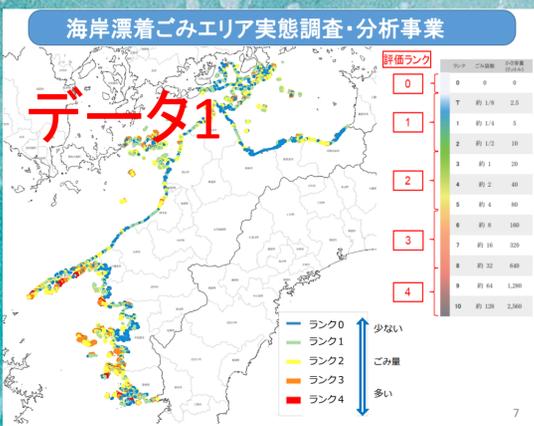
【仮説】

条件の異なる海岸を3点にしぼることで、ゴミの発生条件や集まりやすい場所を特定できる。(図1)

【研究方法】

- ①ほかの地域と比べて南予はなぜ海洋ゴミが多いのかデータを利用して明らかにする。
- ②実際に調査して海洋ゴミの発生条件や原因を明らかにする。

【結果】



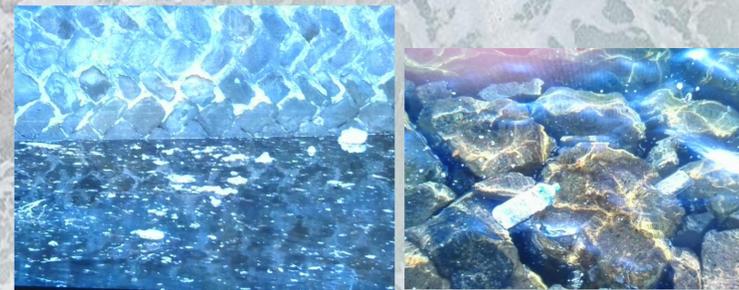
データ2

「愛媛県海洋プラスチック総合調査」
南予の漂着ゴミの個数は東中予の約2.9倍、容量は約1.4倍多い。またすべての地点で「プラスチック類」が最も多く、その中では「カキ養殖用パイプ」「カキ養殖用マメ管」の割合が最も高い。

【考察1】

データ1より南予の地形はリアス海岸になっており、リアス海岸ではその入り組んだ地形を利用して養殖が盛んである。これらに加えデータ2より養殖用の漂着ゴミの割合が高いことから、南予が他地域に比べ漂着ゴミの個数が多いのはリアス海岸の地形を利用した養殖が盛んだからと考えられる。

調査場所① 九島



養殖が盛ん



↑ペットボトル、空き缶、発泡スチロールなどのゴミ
テトラポットなど入り組んだ場所では比較的ゴミが多い→

調査場所②、③ 大浦、きさいや周辺



ほとんどゴミがなく、定期的に手入れがされているような状態。

【考察2と今後の課題】

調査の結果養殖が盛んな九島では他の調査場所に比べ圧倒的にゴミが多かった。よって考察1が正しいことが明らかになった。

今後は養殖場から排出される海洋ゴミをどうやって防ぐかの対策と海洋ゴミを利用して何ができるかを考えていきたい。